

# 平和への思いを日常に 平和の文化を醸成

被爆者のいない時代を見据えて

今年、被爆77年を迎え、これまで平和活動を含ん引してきた被爆者の皆さんがいなくなる時代が近づいてきています。それは戦争を知らない世代だけになる時代の始まりです。

今後は、被爆者から被爆体験や平和への思いを直接聞くことがますます難しくなることが予想されます。

被爆者のいない時代を迎えたとしても、「核兵器廃絶」と「世界恒久平和」の実現に向けて、力を尽くし続けることは、被爆地長崎の大切な使命です。

## 平和の文化の醸成

「核兵器廃絶」と「世界恒久平和」を実現するためには、被爆者からの平和のバトンを未来につなぎ、多くの人が主体となって平和のために行動していく流れをつくる必要があります。

そこで、市がこれまで重点的に取り組んできた「被爆の実相の継承」と「核兵器廃絶の推進」の二つの柱に加え、三つ目の柱として、スポーツや芸術などさまざまな分野を入り口に、多くの人が身近なところから平和について考え行動し、日常の中に「平和の文化」を根付かせる「平和の文化の醸成」に取り組んでいます。

その一環として「平和の文化事業認定制度」と「平和の新しい伝え方応援事業費補助金」などにより、平和の輪を広げるための取り組みを進めています。

## 核兵器のない世界の実現のため 長崎市が取り組む3つの柱

### 平和の文化の醸成

スポーツや芸術などさまざまな分野を入り口として、多くの人が主体となって平和について考え、行動する機会をつくることで、平和の輪を広げます。

### 被爆の実相の継承

原爆の悲惨さを将来にわたって伝え続けるため、被爆体験を語り継ぐ「人」の育成や被爆の実相を伝える「モノ」や「場所」の保存・活用を図ります。

### 核兵器廃絶の推進

国際社会で「核兵器のない世界」こそが、世界のルールだという流れを確立するため、市民社会が声を上げる環境をつくっていきます。

# 平和の文化事業認定制度

## 認定事業

### 認定第1号 V・ファーレン長崎 平和祈念活動

平和学習や平和祈念ユニホーム着用などさまざまな活動を展開

### 認定第3号 Pray for Peace Collection 2021 in 長崎

「長崎を最後の被爆地に」の願いをファッションとアートで表現

### 認定第4号 平和賛成！華和蘭（変わらん）輝きの長崎

100年前の長崎手彩色絵はがきを使って平和の尊さを発信

### 認定第5号 長崎から世界へ「ピースなTシャツ」

Tシャツのデザインを全国から募集し、平和につながる行動を広げる

平和のために行動することが難しいと感じる人は多いと思いますが、私たち一人ひとりにできることはたくさんあります。

スポーツや音楽、芸術などを通して、平和への思いを表現したり、文化や風習の違う人たちが交流し、互いの理解を深めたり、日常の小さな行動が平和につながります。一つひとつの行動は小さくても、たくさん集まれば、世界を動かす大きな力になります。

市では平和をつくる仲間を増やすために、こうした取り組みを認定し、応援しています。

## 認定第2号

## 平和を願う灯籠流し

昨年10月18日、松山町の爆心地公園そばを流れる下の川に、187個の紙の灯籠が流されました。灯籠は、長崎県内やアメリカ、ベルギーなど世界各地の子どもたちが描いたハートや手と手を取り合うイラストと一緒に、市内の中学生や長崎大学の学生が平和へのメッセージを書いて帆に張り付けたもの。当日の参加者はその様子を見ながら、世界平和を願いました。

この取り組みを行った「サークルK長崎大学」代表の小林大瞬さんにお話を伺いました。

流した灯籠は、イラストやメッセージなどに多くの人が関わって作ったものです。

イラストはさまざまな国から届き、難民地区の子どもが描いたものもあります。それを受け取った時、自分たちが大変な環境にいるにも関わらず、長崎市の平和活動に関心を持ち、イラストを送ってくれたことに感動しました。

また、中学生がメッセージを書いたり、組み立てたりしてくれて、流す際は長崎大学と長崎県立大学の学生と一緒に流してくれました。

この活動をいろんな人に知ってもらうことで、平和への意識が高まればいいなと思っていたので、多くの人が参加して、平和について考える機会になっとうれしかったです。

今後もこの

ようなイベント

を通じて、

平和を想う機

会が続いてほ

しいと思っ



サークルK  
代表 小林 大瞬 さん

# 平和の新しい伝え方応援事業費補助金

## 令和4年度選定事業

### 地域間連携によるピーストーク 8.9 長崎⇄大分

8月9日に長崎と大分の中学生をオンラインで結び、平和学習を行う

### 被爆ピアノで繋ぐ ひろしま・ながさき

被爆ピアノの伴奏でリモート合唱を行い、動画サイトで発信する

### 8月9日、長崎とアウシュヴィッツで

### 共に平和を祈るプロジェクト

長崎とドイツの大学生が原爆投下とホロコーストという悲惨な戦争体験を共有し、8月9日にオンラインで祈りの集いを開催

### 「忘れないでさくらこちゃん」絵本プロジェクト

爆心地から発掘された子どもの遺骨から、その子の物語を想像して絵本を制作し、子どもたちに原爆や平和を伝える

今、若い世代を中心に、新しい発想で平和を伝えるためのチャレンジが始まっています。そこで、多くの人が主役となって平和を発信することを応援するため、昨年度「長崎市平和の新しい伝え方応援事業費補助金」を創設。被爆の実相や核兵器廃絶、核兵器禁止条約のことをよく知らない人やあまり興味を持っていない人へ分かりやすく伝える事業を募集しました。昨年度は5つ、今年度は4つの事業を補助事業に選定。選定事業には補助金を交付し、新たな発想で多くの人に届く伝え方のチャレンジを応援します。昨年度の成果報告や、今年度の活動経過は随時「ながさきの平和」ホームページなどに掲載しています。

## 令和3年度選定事業

### 被爆者のいまを伝えよう！

### フォトグラフファー体験

年々被爆体験を伝えることができる被爆者のかたが減る中で、若い世代が被爆者の話に直接ふれる機会をつくり、継承の担い手を増やすために、市内の写真スタジオ「Studio One Nagasaki」代表の草野優介さんが写真の講座形式で事業を行いました。

講座では、8人の参加者がそれぞれ被爆者から話を聞き取り、写真を撮影。撮った写真と被爆者のプロフィールや聞き取った内容、参加者が事業を通して感じたこと、これからの目標などをパネルにして作品展を開催しました。

参加者は、撮影を通じて被爆者の思いにふれ、作品作りを通して伝え方を学びました。

今年度も同じ取り組みを行い、10月頃に作品展を開催予定です。



## 平和のバトンをつなぐ

小学校の教員を目指す大学生の三谷華蓮さんは「教員をしていた被爆者のかたの話を聞きたい」と希望し、被爆者で元教員の八木道子さん取材することになったそうです。

実際に八木さんの話を聞き、自身が被爆者の話を直接聞ける最後の世代だということを実感。「次世代に平和の大切さや原爆の悲惨さを自分たちが伝えたいいけない」と思い、改めて原爆や平和について学ぶ必要性を感じたとのこと。

そしてこの体験に参加することで、写真を撮るきっかけに被爆者から直接話を聞くことができ、展示会にきた同世代の人に、平和や原爆について自身が感じたことを伝えることができる良い機会になったと感じたそうです。

また、日ごろ子どもたちに被爆体験講話をしている八木さんは、平和の意識付けは教育が大切だと言われます。「教員を目指す三谷さんが、今後、働きながら平和活動を続けていきたいと思っていることがうれしい」と笑顔で話しました。

「彼女に平和の大切さを伝えるバトンを渡すことができた」と話す八木さんの手は、三谷さんとしっかりつながっていました。



核兵器のない世界の実現に向けて

# 核兵器禁止条約 第1回締約国会議

核兵器を「非人道兵器」として、開発や保有などあらゆる活動を例外なく禁止した国際条約「核兵器禁止条約」が昨年1月22日に発効。その具体的な中身の検討を行うため、6月21日から23日にオーストリアのウィーンで「核兵器禁止条約第1回締約国会議」が開催されました。49の締約国と34のオブザーバー国が参加し、被爆地の代表の一人として田上市長も参加してスピーチを行いました。

## 長崎を最後の被爆地に

会議の中で田上市長は核兵器禁止条約の成立に尽力された全てのかたへの敬意と感謝を述べました。また、ウクライナ情勢によって核兵器が使用される危険性が高まる中、条約の意義が大きくなっていくことを強調し、



これまで被爆者が訴えてきた「長崎を最後の被爆地に」を合言葉に、力を合わせて「核兵器を絶対に使わせない」という共感の連鎖を世界に広げていくことを呼びかけました。

## ウィーン宣言と行動計画

最終日には、「核兵器のない世界」への決意を示した「ウィーン宣言」と、核兵器廃絶に向けた具体的な取り組みをまとめた「ウィーン行動計画」が採択されました。

宣言では、核兵器の非人道性にふれ、核兵器の使用や威嚇を行わないよう強く求めました。核兵器に反対する世界的なルールを作ることを目標にしています。

行動計画には、核兵器禁止条約が核軍縮・不拡散体制の基盤である核不拡散条約（NPT）と互いに補い合う条約であることが明記され、条約の規範や価値を広く伝えること、そして、署名・批准国を増やすための取り組みなど50の行動が示されています。

今回の会議は、核兵器禁止条約を世界のルールとして確立するための第一歩となりました。

## 第10回NPT再検討会議に向けて

8月1日から26日に第10回NPT再検討会議が開催されます。

締約国会議での成果を受けて、核保有国も参加する今回の再検討会議でどのような最終文書が採択され、核軍縮に向けた具体的な道筋を示すことができるかが重要になってきます。

会議を成功に導くために、被爆地長崎の役割をしっかりと果たしていきます。

